

講演会等

- R4年6月8日 宗像市 健康福祉部高齢者支援課主催
演題：地域と繋がる介護予防セミナー
10年後の自分や家族・地域のために今、やっておくこと
- R4年8月8日 福岡県鞍手町地域包括支援センター主催 介護予防サポートリーダー講演会
演題：通いの場のコミュニケーション・感情のコントロールについて考える
- R4年8月17日 福岡市 令和4年度市民向け介護講座（福岡市介護実習普及センター主催）
演題：体と心の健康講座「脳と体を使ってイキイキ生活」
- R4年8月31日 筑紫野市社会福祉協議会主催
演題：10年後の自分や家族・地域のために今、やっておくこと
～一人の力が地域の活力に！～
- R5年2月16日 福岡市 令和4年度市民向け介護講座（福岡市介護実習普及センター主催）
演題：体と心の健康講座「脳と体を使ってイキイキ生活」
- R5年2月28日 福岡県筑前町 地域包括支援センター主催 筑前町地域支えあい活動研修会
演題：支えあい活動をながく続けるためには
- R5年3月3日 佐賀県基山町 厚生労働省委託事業 生涯現役促進地域連携事業

主な活動実績

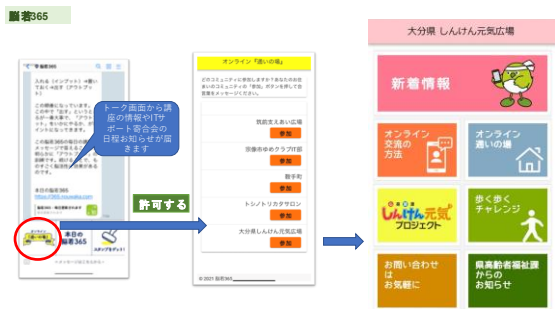
県名	自治体名	事業名	事業開始年度
大分県	県事業	オンライン通いの場推進事業	令和3年度～
福岡県	宗像市	地域介護予防活動支援事業	令和2年度～
熊本県	熊本市	地域介護予防活動支援事業	令和3年度～
福岡県	篠栗町	地域介護予防活動支援	令和3年度～
福岡県	筑前町	生活支援体制整備事業	令和元年度～
佐賀県	江北町	生活支援体制整備事業	令和2年度～
福岡県	鞍手町	生活支援体制整備事業	令和2年度～
福岡県	糸島市	サポーター養成講座	平成28年度～
福岡県	筑紫野市	サポーター養成講座	令和4年度
広島県	江田島市	サポーター養成講座	令和4年度
福岡県	桂川町	介護予防普及啓発事業	平成27年度～
福岡県	岡垣町	認知症予防事業	平成26年度～
福岡県	豊前市	介護予防普及啓発事業	平成27年度～
福岡県	筑前町	介護予防普及啓発事業	令和元年度～
福岡県	篠栗町	介護予防普及啓発事業	令和3年度～
佐賀県	吉野ヶ里町	認知症地域ケア向上事業	令和元年度～

主な活動内容

【大分県 オンライン通いの場推進事業】

本事業は、社会情勢や居住地域等に左右されず、地域とのつながりを維持し、住民主体となって運営する通いの場の活動手法の選択肢の一つとして取り組んだ。介護予防事業成果として、オンラインで通いの場活動を行なう手引き書や動画を作成し、統一した作業内容を提供できたことで普及拡大が図れたこと、さらに、個人におけるオンラインニーズの掘り起こしや新たな地域資源になり得る人材の創出ができたことが挙げられる。オンライン通いの場の拡大としてR3年度の5市6団体からR4年度は11市19団体へと広がった。

今後も継続して、通いの場のオンライン化を推進するために、市町村関係部署と課題を整理し連携を図りながら、通いの場へのオンラインの導入や自主運営を支援するオンラインサポーターを養成する講座を開催していく。



LINEの仕組みを使ったWEBページ制作



【熊本市 介護予防サポーター養成及びフォローアップ事業】

令和3年度より熊本市介護予防サポーター育成事業に携わる中、令和4年度は10年間続いたこの制度の整理を行った。

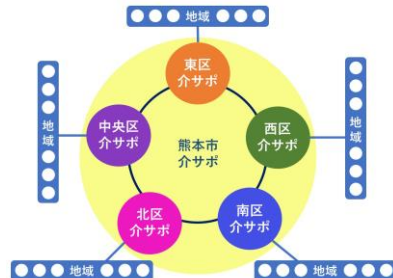
サポーター約300名にアンケート調査することで見えてきたのはサポーター自身の高齢化、またサポーターとして活躍したいのにどうしたら良いかわからないといった声、通いの場立ち上げや生活支援に興味があるといった方も一定数存在することが明らかになった。全区担当者と情報を共有しサポーターの役割を明確化したことは大きな成果といえる。

フォローアップ講座では、まずはアンケート分析の結果の共有と、熊本市介護予防サポーターの役割について明確に説明した。地区ごとにワーク等を行った結果、地域資源はある程度見えてきたものの、その資源をマッチングするにはどうしたらよいか、という課題もみえてきた。

令和4年度は特にサポーター同士の横のつながりを推進した結果、定例会開催やLINEで繋がる動きもみえ、令和5年度以降はより一層、各区域ごと、また全区で情報の共有ができ、地域資源のマッチングへ繋がれると期待する。



地域資源の見える化グループワーク



地域資源の発掘から情報の共有へ促す



【福岡県宗像市 地域介護予防活動支援事業】

サポーター養成講座開催はR3年度と同じく講演会開催からの講座申込み促進を皮切りに基礎編、応用編を経て定例会に繋げる。「我が事」としての「通いの場」創出と2層協議体の活性化を目指し、1期生から4期生までの「ゆめクラブ応援団」の運営サポートを行なった。

当会の特徴である「大道具箱理論」を各期で提唱し、半期に1度の合同定例会で活動発表を行った。LINE公式アカウント「脳若365」を利用しながら通いの場や居場所づくりを促進し、期(地域)をまたいだ活動等も第2層SCと連携しながら活動をサポートした。

【佐賀県江北町 生活支援体制整備事業】

生活支援の仕組み立ち上げから関わり、「へそのまちお助けサポーター」の創出と育成に関わった。課題を抽出した上で、住民自ら活動のPR活動の支援、紹介動画制作を行なった。実際の生活支援ではLINE公式アカウント「脳若365」にてマッチングを行っている。案件依頼をサポーター限定で配信し、カスタマーセンターにてマッチングする。案件数も増えてきたため、支援者決定後はWEBページで確認できるよう工夫。マッチング作業も固定メンバーにならないよう配慮し、細やかなサポートを行なった。

